

学校名：三郷市立北中学校

校長名：谷口喜久男

所在地：埼玉県三郷市泉 267 - 1

電話番号：048-952-5281

I 実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

本校は昭和37年4月1日開校以来49年目を迎える。「心」を校訓として、「心豊かな人間の育成」と「心で教え心で育てる」ことをモットーに、全職員が一丸となって教育活動を行っている。

(1) 学校教育目標

「気づき・考え・実行する」

(2) 特色ある学校づくり「あじさい運動の北中」

(あ) あかるい挨拶…心のふれあい (徳)

(じ) 授業に集中…学力向上 (知)

(さ) さわやかな環境…清掃美化・奉仕活動

(い) 一緒に感動…部活動、行事 (体)

(3) 地域・生徒の実態

小学校の時から、運動に親しむ生徒が多く、部活動も盛んである。女子ハンドボールは本年度全国大会3位・女子柔道は昨年度全国大会に出場し、地域スポーツクラブと、部活動が連携して指導に当たっている。

武道に関しては、これまで選択制の中で柔道を履修してきた。

2 学校の概要 (平成22年5月1日現在)

表1 生徒数

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
学級数	4	3	3	0	10	
生徒数	男	62	57	55	0	174
	女	67	60	49	0	176
	計	129	117	104	0	350

教員数 31名 (保健体育科 3名)

表2 武道・ダンスの授業の状況

領域:武道	領域の内容:柔道				
	1年	2年	3年	特別支援学級	計
配当時間数	12	10	10	0	36
担当教員数	2	2	2	0	3
(外部指導者)	3	1	1	0	3

生徒数	男	62	57	55	0	174
	女	67	60	49	0	176
	計	129	117	104	0	350

II 授業事例及び今後の展望等

【本事業の成果の要点】

- ① 外部指導者を1学年に多く配置することにより、柔道未経験者への個別の指導が可能になった。
- ② 礼法や受け身などの必ず身につけさせたい内容については、複数の目で、徹底して行うことができ、基礎・基本の定着を図ることができた。
- ③ 技の指導では、実際に示範することで、技のイメージをつかむことができ、スムーズに取り組めた。また、外部指導者から個別に実技指導を受けることができ、技が比較的早く習得できた。
- ④ 日本の伝統文化である柔道を学習するための環境が整備され、新学習指導要領に基づく実践を先駆けて行うことができた。

1 研究テーマ等

(1) 研究テーマ

(三郷市共通テーマ・推進校2校共通内容)

武道の特性に触れ、基礎基本を身につける授業の実践
 ～外部指導者と連携を図る、第1学年の授業について～

(2) 研究テーマ設定のねらい

新学習指導要領では、第1・2学年で全ての領域が必修となった。本市では、中学校から新しく始まる武道に対し、3年間を見通した指導計画のもと、第1・2学年ともに8～10時間履修する方向である。

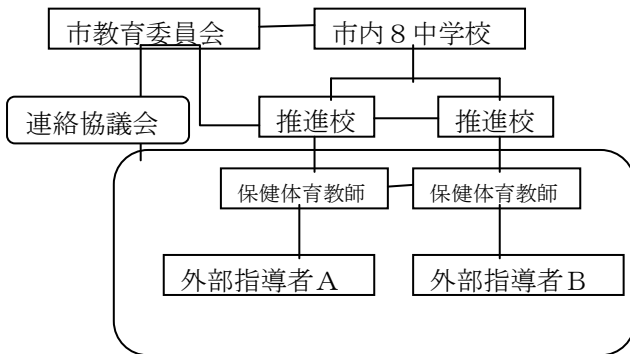
2年間を通し、基本動作や基本となる技を身につけ、伝統的な行動の仕方や考え方などを理解させることで、第3学年での選択で深く学習できるものとした。

そこで、1学年での指導を外部指導者の力を借

りて、複数の目できめ細かく指導していく方法について、実践を通しながら研究していきたいと考
えテーマを設定した。

(3) 取組体制

○市内研究推進委員を中心とした武道の研究組織



平成 22 年度	H22. 6 ～12	埼玉県中学校体育授業研究会の 研究テーマに基づき武道に関す る年間計画の作成
	H22. 9	「相撲」に関する授業研究
	H22. 12	第1回地域連携指導実践事業会議
	H23. 1	関係備品納入
	H23. 2	授業実践開始
	H23. 3	授業実践終了
		第2回地域連携指導実践事業 市内中学校体育授業研究会 「柔道」に関する授業研究 2年間の武道授業研究会 ○平成21年度 彦糸中「剣道」 ○平成22年度 瑞穂中「相撲」 ○平成22年度 北中 「柔道」 (栄中学校は資料発表)

2 授業事例

(1) 柔道

① 目的 以下の仮説を検証する。

(仮説1) 武道特有の礼儀・礼節を徹底して指導することにより、生徒一人一人が武道の特性に触れることが出来るだろう。

(仮説2) 教師主導の授業を展開する中で、示範や個別の指導に外部の指導者を活用していくことで、基礎・基本の定着をはかることが出来るだろう。

② 具体的な指導方法

ア 仮説1の検証

「柔道」の単元指導計画の作成と工夫

○1年生のオリエンテーションの工夫
オリエンテーションを2時間取り次の点を
重点的に指導する。



写真1 オリエンテーションの様子

「わかる」

- ・柔道の作法所作、特性や成り立ち、相手を尊重する心
- ・柔道の授業の進め方(危険防止・授業の約束)

「できる」

- ・場の設定・柔道衣の着脱・片付け
- 学習カードの記入

○生徒の実態調査

「柔道の授業に関するアンケート」

(推進校2校に実施・単元前・単元終了)

柔道の授業に関するアンケート (授業前)

学校名	中学校	年 組	男・女
1. 柔道の試合を見たことがありますか？(テレビ等も含む)			
(1. よく見る 2. 時々見る 3. 見たことがある 4. ない)			
2. 柔道に興味がありますか？			
(1. たいへんある 2. 少しはある 3. 全くない)			
3. 柔道の経験がありますか？			
(1. 部活動・外部のクラブで行っている 2. やったことがある 3. ない)			
4. これから始まる柔道の授業は「楽しい」と思いますか？			
(1. とても思う 2. 少しは思う 3. あまり思わない 4. 全く思わない)			
5. 柔道は、相手を思いやって練習や試合をすることが大切だと思いますか？			
(1. とても思う 2. 少しは思う 3. あまり思わない 4. 全く思わない)			
6. 柔道には、礼法が大切であると思いますか？			
(1. とても思う 2. 少しは思う 3. あまり思わない 4. 全く思わない)			
7. 柔道には、「受け身」を身につけることが大切だと思いますか？			
(1. とても思う 2. 少しは思う 3. あまり思わない 4. 全く思わない)			

アンケートの結果より

- 1 柔道の試合を全く見たことのない生徒
男子60名中10名 (16.7%)
- 2 柔道に全く興味のない生徒
男子60名中15名 (25.0%)
- 3 柔道経験者の生徒
男子60名中7名 (11.7%)

○武道の特性である「礼儀・礼節の指導」

三郷市では、研究を通し、武道における「礼儀作法」と市内で推進している「授業規律の徹底の確立」のため3年間を通し以下のように指導の重点を統一して実施することとした。

3年間を見通した礼儀作法と授業規律の確立
第1学年
…徹底して礼法や所作の形を繰り返し指導する。
第2学年
…礼法や所作の意味を理解させながら指導する。
第3学年
…自ら市全体で礼法や所作を行えるようにする。

アンケートでは「礼法」に関して、柔道に興味関心のない生徒もふくめ60名中37名(61.6%)が「礼法」が大切であるか、という質問に関して「とても思う」と回答している。

イ 仮説2の検証

学校における「柔道」の授業は、保健体育科の教師がメインとなり、技能習得を目的に外部指導者に協力していただくよう事前打ち合わせで、授業における役割を明確にした。

T1…保健体育科教師
授業を中心的に進め、全体の指導を行う。

T2…外部指導者1
技の説明を行い、主に示範し、技のポイントを指導したりする。

T3…外部指導者2
授業の中で、個別に指導が必要な生徒に丁寧に指導する。



○「姿勢と組み方」の個別指導

「つり手」と「引き手」の個別指導



写真2 外部指導者による個別指導



○「受け身の個別指導」



段階的な練習

- ① 長座から
- ② 中腰から
- ③ 片膝立から
- ④ 動きの中で
・後ろ・横・前

写真3 外部指導者による受け身の個別指導

アンケートでは「受け身」に関して、柔道に興味関心のない生徒でも60名中43名(71.6%)が「受け身」を身につけることがとても大切だと回答している。

○「相手を不安定な状態にする崩しと体さばき」



崩しの練習

- 右前隅
- 右横
- 右後ろ隅
- 前隅
- 後ろ隅
- 左前隅
- 左横
- 左後ろ隅

写真4 外部指導者による崩しの個別指導

アンケートによる「柔道」の授業への期待度は、「これから始まる柔道の授業「楽しい」と思いますか」と言う問いに対して「とても思う」「少しは思う」と回答した生徒が60名中54名(90.0%)いたことから、柔道の授業に対して期待していることがわかる。

③ 成果・課題

ア 学習環境としての成果

学習環境の整備として一番に上げられるのは、柔道衣(40着)と畳(100枚・2階柔道場を全て畳で敷き詰めることができた。)を整備できたことである。これまでは、選択者数も少ないことから、余裕教室に畳を敷き、授業を行ってきた。

柔道衣も、今まで上衣だけで行っていたが、上下の柔道衣着用させて指導ができた。第1学年生徒は、今まで着たことのない柔道衣を着ることで、気持ちが引き締まり普通の授業とは違った良い意味での緊張感のもと授業が実施できた。

用具を整備し、適切な活動場所を確保すること

が、活動の効率を高めたり、安全な活動を保障する上で重要であることが確認できた。



写真5 赤畳を活用し、柔道場2面が完成した。
安全点検を手伝う外部指導者

イ 教師の指導力の向上としての成果

地域の武道指導者との連携では、保健体育担当教師の授業の指導力が高まったことが成果としてあげられる。外部指導者とともに授業展開をする中で、指導する「技能」がより明確になり、具体の言葉かけが行いやすかった。

ウ 生徒の学習内容の習得としての成果

(仮説1) に対する成果

武道特有の礼義・礼節を徹底して指導することにより、生徒一人一人が武道の特性に触れることができるだろう。

「柔道」に関する礼儀礼節について、徹底して形から入り、繰り返して指導することにより、緊張感のある真剣味のある授業展開ができた。

また、柔道の授業時において心配されるケガの発生も抑えることができた。

オリエンテーションを2時間とり、授業の初めに1時間の学習の流れを示すことで、生徒たちに学習の見通しをもたせることができた。このことで、生徒の学習意欲の向上と持続につながり、授業をスムーズに進めることができた。

(仮説2) に対する成果

教師主導の授業を展開する中で、示範や個別の指導に外部の指導者を活用していくことで、基礎・基本の定着を図ることができるだろう。

・わかりやすい示範

授業での実技指導において、これまで示範をする際に生徒を相手に行っていたものが、外部指導者と協力して行うことができたため、より具体的で、わかりやすい示範ができた。

・きめ細かな個別指導



1学年は、「柔道衣の扱い」から、時間をかけて

写真6 生徒の能力に合わせた指導

指導する必要がある。通常1人の教師では、目が届かない部分も多かったが、グループ別に外部指導者が入り、個別に指導することできめの細かい指導ができた。

また、技の指導も生徒の能力に合わせた指導が可能となり、より多くの生徒に対して具体的な言葉かけを行うことができた。

3 今後の展望

(1) 中学校武道必修化に向けた地域連携指導については、生徒の学習内容の習得や教師の指導力の向上、日本文化としての武道の特性に触れ、多くの成果を得ることができた。

地域の武道指導者との十分な打合せ、指導者の選択、教師の力量等の課題もあるため、活用に対してさらなる研究が必要である。

(2) 年間指導計画の中に、身につけたい基礎、基本を明確にして作成する必要がある。

(3) 今回、柔道に関しては、男女別習実施した。現行の指導要領では、ダンスとの組み合わせであったが、本年度より、球技と組み合わせ、実施をした。このことにより、男女共習によるダンスの良さと、能力差の大きい、武道の両方の特性に触れることができる。単元の配列も今後の課題である。

資料1 授業風景



資料2 単元の計画

単元計画作成のポイント

小学校では柔道を取り扱わないので、中学校で初めて学習する内容となる。そこで、生徒の柔道に対する愛好的態度や得手不得手にかかわらず、また、男女の性別にも関係なく、すべての生徒が学ぶことを念頭に授業を計画する必要がある。

そこで、第1・2学年いずれの学年でも取り扱う計画とし、それぞれ10単位時間程度配当した。

目標 (第1・2学年)

(1) 技能 **基礎基本の習得—簡単な攻防へ**

相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開することができるようにする。

(2) 態度 **学習意欲と礼儀礼節**

技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技の習得に進んで取り組もうとする。

礼節を身につけ、仲間を尊重し、練習や試合をしようとする。危険な動作や禁じ技を用いないことや、練習及び試合の場所などの安全に留意しようとする。

(3) 知識、思考・判断

柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などについて、書き出すことができるようにする。また、技を身につけるための運動の行い方のポイントを見つけ、課題に応じた練習方法を選択できるようにする。

第1学年単元計画：ねらい1：相手の動きに応じた基本動作を用いて、投げたり、受け身をとったりする。										
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
○オリエンテーション ・学習のねらい ・進め方の確認 ・特性や成り立ち ・礼法 ○柔道着の着方としまい方 ○準備運動・慣れの運動 ○学習ノートの記入 ○用具準備と片付け ・安全確認		○本時の学習内容の確認，準備運動								
		○基本動作の練習 ・基本のくずし，体さばき，受け身 ・帯引きゲーム								
		○基本動作の判定(グループごとに身につけているか判定)								グループ別対抗戦
		ねらい2：相手の動きに応じた固め技を用いて攻防を展開する								
		○固め技の練習								身につけた技で試合を行う
		けさ固めと返し方		横四方固めと返し方		上四方固めと返し方		課題別練習		
		○固め技を活用した試合								
○整理運動，学習活動の反省，次時の課題の確認										